

### III 25年度学校関係者評価委員会からの提言と学校の改善計画

#### ◆ 1 【学習指導について】

提言	授業がより分かりやすく、楽しくなるような授業を展開するための教材・指導法の改善等を更に進めてもらいたい。 ベテラン教員が若手教員の授業力を育てるための学校および学年研修のもち方も検討してもらいたい。
取り組み	○学校は、学ぶ場として楽しい場である事を伝えるために、教員自身が楽しく学ぶ姿を見せる。 ○週末に学年会を設け、翌週の教材研究・教材準備を、学年で協力して行う。 ○学年内で交換授業や合同授業を行い、教員が互いのよさを学び、授業改善に努める。 ○若手教員研修会を充実させる。 ・主幹教諭、主任教諭による講話や実技研修を行う。 ・若手教員間で、積極的に授業を公開し、互いに切磋琢磨する。

#### ◆ 2 【生活全般において】

提言	子どもに二面性（やしさと厳しさ）を指導できる教師であってほしい。 いけないことは毅然とした態度で注意できる指導を心がけてもらいたい。 「公平」ということについて子どもと教職員が一緒に考えてもらいたい。
取り組み	○若手教員研修会の中で、誉め方に特化した授業観察を行い、教員が実践の中で効果的な誉め方を身に付ける。 ○子どもも誉めて伸ばすことを基本に、誉めることと叱ることのバランスを考えながら子どもに接する。 ○子どもに分かる言葉や表情で誉めたり叱ったりする。 ○一人ひとりに合った「公平」について、学年やその時に応じて、その場その場で教えていく。

#### ◆ 3 【学び舎について】

提言	実際に交流体験を行うことが重要である。小学生・中学生・教員が集まり、目的を明確にして、できそうな活動内容を導き出し進めてほしい。
取り組み	○今年度の分科会に理科部会と社会科部会を加え、9年間を見通した指導について、具体的な方策について話し合い実践する。（年4～5回） ○行事交流を行う。例として以下の3点を考えている。 ・小学校の作品展に中学生の作品を出品する。 ・あいさつ運動の日に、小中学校の当番の児童・生徒が互いの学校へ行きあいさつをする。 ・中学生が小学校の全校朝会で、行事の宣伝をする。 ○避難所運営訓練を学び舎で、同一日に設定し、地域の防災の意識を高める。 ○学び舎だより「トライアングル」を発行し、自立の学び舎で実践した事を保護者、地域に周知する。

#### ◆ 4 【情報の提供について】

提言	情報提供は、分かりやすさ・正確さ・タイミングのよさが要求される。情報によりホームページ、学校便り、PTA便り、町会や自治会だより等の利用を選択してほしい。
取り組み	○各学年にホームページ担当者を置き、学年の行事や日々の学習の様子をホームページに掲載する。 ○校長・副校长は、校内を巡る時に気付いた事や、地域行事、PTA関係についてホームページに掲載する。 ○学校だよりを、町会の掲示板に掲示してもらう。 ○情報の正確さ即時性を大切にする。 ○校内掲示版の学年コーナーに児童の活動の様子が分かるような写真や作品を掲示する。また、その状況を、ホームページや学年便り、緊急メール等で保護者や地域の方々にお知らせする。

#### ◆ 終わりに

ある保護者の方の言葉から

「教師は表面的な公平にこだわったり、子どもになびいたりする必要はない。毅然とした態度で、どんと構えていてほしい。子どもが一人孤立していたり、いじめられたりしているなら、その状況は全力で改善してほしいが、指導が厳しかったり、多少かたよったりしていても、その場（学級・学校）が楽しければ、それで十分だと思う。子どもがその場にいたいと思う、そういう学級（学校）をつくってくれることを強く望みます。」

学校関係者評価委員会からの提言を受けて、4項目の改善計画を立てました。改善するべき課題を明確にして、子どもがこの学級にいたい、この学校でよかったと思える学校づくりに全教職員で取り組んで参ります。